

ノザキ チサト  
**野崎**

**千聖**



新年度第1号の学生紹介。  
今回は、ボートの「U-23 ワールドレガッタ」の日本代表を発掘・育成する合宿に選ばれ、日々代表目指して練習に励む、ボート部で法学部法学科3年生の野崎千聖さんにインタビューした。

野崎さんは、滋賀県・膳所（たねす）高校出身。中学時代は陸上競技をやっていたが、高校でボートへ転身した。中学にはなかった新しい競技で、みんなが同じスタートラインから始められるところに魅力を感じたそうだ。陸上で培った瞬発力・持久力を武器にめきめき頭角を現した野崎さん。滋賀県大会で1位となり、「結果を出せるボートという競技が大好きになった」と話す。高校3

年の秋には兵庫国体に出場。少年女子シングルスカルで全国初受賞となる6位をマークした。

**ボートと勉強両立**

この国体で出会った元日本代表でもあるコーチが、野崎さんの人生の師となる。「ボート以外の武器も身につけて、いい意味でボートにとらわれない人生にしてほしい」。そのコーチが野崎さ

んに言った、進路を決めたと言葉だ。「強豪の私立大学へ推薦で進んでボートを続けるのもいい。でも、できるなら国立大学へ行き、大学の勉強も部活も、両立させられる人であってほしい」。自身も国立大学で学び、ボートを続けてきたコーチの想いを受け、野崎さんは国立大学への進学を決意。1年の浪人後、本学法学部へと進んだ。

「実は、大学でボートを続けるかどうかは迷っていた」と打ち明ける野崎さん。高校を卒業し、大学受験に向けて勉強している間は、ボートから距離を置いていた。「法学部に進んだからには、検察官を目指そうと考えた時もあった」という。しかし、やはりボートへの思いは消えず再開を決めた。

**出会いを支えに**

百間川で行うボート部の練習は朝5時から。「まとまった時間しっかり練習し、1限に間に合わすためには、そのくらいでないといけな

い。朝早くてきついけど、みんな頑張ってる練習に集まり、マネージャーさんも朝ご飯を作りに来てくれる。みんなボートが大好きなんです」とびきりの笑顔を見せてくれた。

現在、「なれていて実家からも通える地元で漕いだ方がいい」とのコーチの助言で、滋賀県の琵琶湖でも練習に励む。育成合宿で出会った人たちのほからいでも、京都大学の艇を借りられることになり、いまでは京大生たちともすっかり仲良くなった。「いろ

んな人と出会わせてくれ、私を成長させてくれるボート。だから頑張れるんです」。コーチをはじめ、ボート部員、合宿の仲間…。ボートでつながる仲間たちが彼女の熱意を支えている。

**全国で「上」を目指す**

「ボート馬鹿」と自ら語る野崎さんに、代表選考への手応えを聞いてみた。「今シーズンの選考は、もしかしたら厳しいかもしれない」と、意外に弱気な答えが返ってきた。「でも、だんだんと実力もついてきている。タイムは良くなったので、後は技術を磨いて、全国で上を目指す。今、出来る全力を振り絞って、その次の選考も視野にいれてアピールしていきたい。将来は実業団に入ってずっと続けていければ」。取材中に一発芸も披露してくれるなど、お茶目な雰囲気も見せる女の子。その視線は、目先の事を捉えず、つつも、しっかりと未来を見据えていた。



撮影：宅島正二（日本ボート協会提供）